

1. 研究課題名：  
適切な農薬の後作物残留リスク評価に基づく  
実効的な管理技術の開発
2. 研究代表者氏名及び所属：  
清家 伸康（独立行政法人農業環境技術研究所）
3. 研究実施期間：平成 25～27 年度



#### 4. 研究の趣旨・概要

農薬登録保留基準を満たし農薬登録されているにもかかわらず、当該作物の栽培で適切に使用された農薬が収穫後の土壌に残留し、次作の作物に移行する（農薬の後作物残留）事例が報告されている。食品衛生法における残留基準値を超過した場合、農作物の出荷停止や自主回収等極めて大きな経済的損失を被るため、農薬の後作物残留を未然に防ぐための技術開発が求められている。

本研究では、農薬の後作物残留リスクを低減するため、最新の科学的知見に基づく後作物残留リスクが高い農薬を選定するための評価法といった環境行政に貢献する技術や、農業生産現場における実効性の高い管理技術（土壌診断法や栽培方法等）を開発する。

#### 5. 研究項目及び実施体制

適切な農薬の後作物残留リスク評価に基づく実効的な管理技術の開発  
（独立行政法人農業環境技術研究所）

##### 研究項目

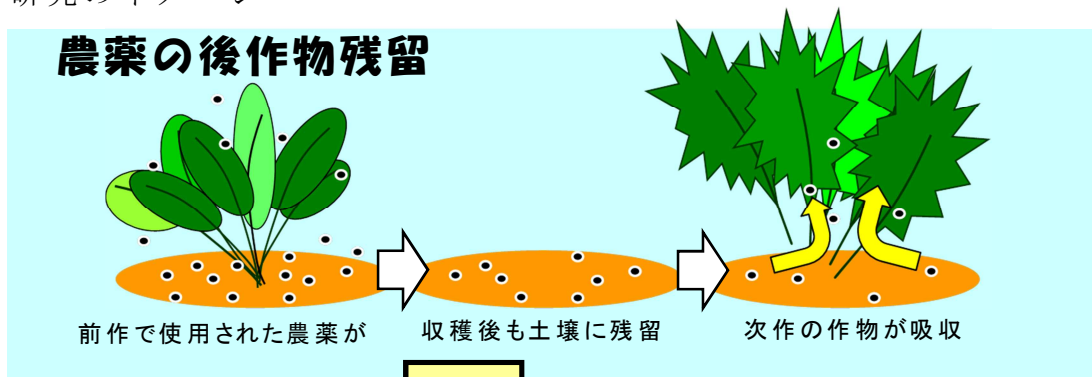
農薬の土壌残留特性の解明，

農薬の作物吸収特性の解明

農薬の後作物残留リスクを評価するシミュレーションモデルの開発

注：サブテーマは設けない

6. 研究のイメージ



## 目的：農薬の後作物残留を未然に防ぐ技術を開発

### 研究方法

#### 土壌残留特性の解明

- 土壌中半減期
- エージング過程

#### 作物移行特性の解明

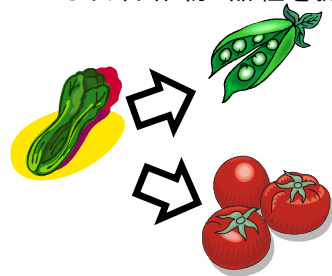
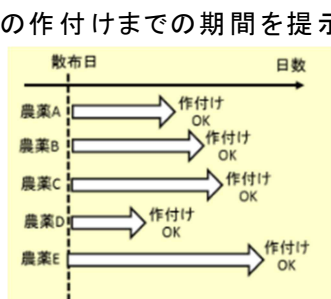
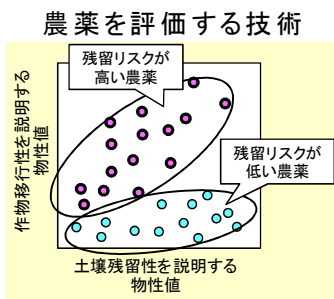
- 作物・品種間差
- 成長速度との関係

#### 後作物残留リスクを評価するシミュレーションモデルの開発

### 科学的根拠に基づいた環境行政や生産現場に貢献する 評価法と技術

### 期待される成果

- 後作物残留リスクを有する農薬を評価する技術
- 農薬の最終散布から次の作物の作付けまでの期間を提示
- 代替作物・品種を提示



- 試験土壌・作物を提示



- 土壌診断法を開発

